

## シンハラ語における対格標示名詞と動詞の結び付き (2)

かかわり動詞を中心に (前編)

宮 岸 哲 也

The Connection between Accusative Case Marked Nouns and Verbs in Sinhala (2):  
Focus on the Transitive Verbs Expressing Mental Relation to Objects (Part 1)

Tetsuya MIYAGISHI

### はじめに

働きかけを表す動詞に限定した前回の論文<sup>1)</sup>に引き続き、今回は、かかわり動詞に焦点を当てて、シンハラ語の動詞と対格標示名詞<sup>2)</sup>との関係を見ていく。かかわり動詞とは、働きかけ動詞のように、対象に物理的に働きかけ、変化を生じさせるような動作を表す動詞ではない。それは、対象に対し精神的活動や態度を向けることを表す動詞である<sup>3)</sup>。例えば、1)の *iranawaa* (引き裂く) は、「絵」という対象に物理的変化を引き起こす働きかけ動詞であるが、2)の *balanawaa* (見る) は、「絵」に何ら状態的な変化を生じさせることがないかかわり動詞である。

1) *mama citrayak balanawaa.*

私は 絵を 見る。

2) *mama citrayak iranawaa.*

私は 絵を 引き裂く。

なお、かかわり動詞の分類は、下記の日本語動詞の連語研究による分類に倣った<sup>4)</sup>。

a 感性的な結びつき

b 知的な結びつき：①思考活動、②言語活動、③意志活動

c 認識の結びつき：①発見活動、②認知活動、③再生活動、④計算活動

d 態度の結びつき：①感情＝評価的な態度、②知的な態度、③意義付け的な態度

④関係づけ的な態度、⑤表現的な態度

- 
- 1) 宮岸哲也 (1983) 「シンハラ語における対格標示名詞と動詞の結び付き (1) 働きかけを表す動詞を中心に」, 『安田女子大学紀要』第36号  
2) シンハラ語の対格標示については、上掲書の pp46-47を参照のこと。  
3) 奥田靖雄 (1983) 「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」, 言語学研究会編『日本語文法・連語論 (資料編)』むぎ書房 pp220-221  
4) 上掲書 p220-277

e 動作的な態度の結びつき

f 内容の結びつき：①内的経験の内容，②知的活動の内容，③動作の内容

g 論理的な関係の表現

そして、これらの分類の中に入るシンハラ語動詞が、対格標示名詞と組み合わせたり、かかわりの結びつきを作っているかどうか、文学作品を中心に用例を集め検証した。但し、今回は紙幅の関係上、上記の分類のうち a～d だけを取り上げ、e～g については、次回の論文において扱うことにする。

### 1. 感性的な結びつき

感性的な結びつきとは、動作主が、視覚、聴覚、嗅覚、味覚などの感覚によって、対象との関係を築くような意味を表す動詞と名詞の結びつきである。このような結びつきを作る動詞としては、*balanawaa* (見る), *ebikam karanawaa* (覗く), *dakinawaa* (見る), *orawaa balanawaa* (睨む), *rawanawaa* (睨む), *nara<sup>m</sup>ba balanawaa* (眺める), *ahanawaa/asanawaa* (聞く), *ssrawaNaya karanawaa* (聞く), *uranawaa* (嗅ぐ), *aaghraaNaya karanawaa* (嗅ぐ), *wi<sup>n</sup>dinawaa* (味わう), *dænenawaa* (感じる) 等がある。これらの動詞と結びつく対格標示名詞としては、具体物の名詞、状況を抽象化した名詞、感覚を表す名詞などが挙げられる。

- 3) *edaa ewæni darssanayak balaa siTi maTa*, 《KO3》  
その日に そのような 場面を 見て いる 私に
- 4) *nandaseenawa api dække nææ*. 《HE199》  
ナンダセーナを 私たちは 見なかった。
- 5) *ee suwa<sup>n</sup>da aaghraaNaya karana wiTa* 《MW100》  
その 香りを 嗅ぐ 時に
- 6) *ehi niyama rasaya wi<sup>n</sup>dinnaTa nam* 《MG14》  
その 本来の 味を 味わう なら
- 7) *mee taram siitala dæniNu warshayak maTa mataka næta*. 《MW95》  
これほど 寒さを感じた 年を 私は 記憶に ない

なお、視覚活動の動詞は、対格標示名詞と直接的に結び付くばかりではなく、後置詞 *desa* (～の方) を介在させた名詞句と結び付くこともある。

- 8) *sshaayakayaa ekwaraTa ma saattu seewikaawa gee muhuNa desa balayi*. 《SJ17》  
助手は 一度に 看護婦の 顔の 方を見る
- 9) *Lamaatænii deweni waratat pahaLa pælpata desa ebikam karanna gattaa*. 《友169》  
女主人は 2 度目も 下の 小屋の 方を 覗いた。

## 2. 知的な結びつき

知的な結びつきとは、動作主体が知的活動によって、対象との関係を築くような意味を表す動詞と名詞の組み合わせである。下位分類として、思考・言語・意志の各活動がある。

## 2.1 思考活動

思考活動を表す動詞としては、*kalpanaa karanawaa* (考える), *hitanawaa* (考える), *dannawaa* (知っている), *dæna gannawaa* (察する), *wæTahenawaa* (わかる), *waTahaa gannawaa* (わかる), *awaboodha wenawaa* ([無意識的に] 理解する), *awaboodha karanawaa* ([意識的に] 理解する), *teerum gannawaa* (理解する), *teerenawaa* (理解する), *mæna gannawaa* (判断する) 等がある。これらの動詞がとる対格名詞としては、具体的な人や物であっても、抽象的な観念や感情であっても可能である。

- 10) *wenat deewal kalpanaa kiriimaTa taram* 《KO91》  
外の 事を 考える だけ
- 11) *magee hængiim dæna gat wiTa* 《MW68》  
私の 心境を 知る 時
- 12) *tikin tika æya maa awaboodha kara gattat* 《KO194》  
少しずつ 彼女が 私を 理解しても
- 13) *susilaaTa eewaayee barapataLakama no teerenTa puLuwana.* 《HE181》  
スシラに この 重大さを 理解することはできない。

## 2.2 言語活動

言語活動を表す動詞としては、*kiyanawaa* (話す), *kataa karanawaa* (話す), *doDanawaa* (言う, 話す), *pawasanawaa* (話す), *anaawaraNaya karanawaa* (打ち明ける), *heLi karanawaa* (打ち明ける), *wistara karanawaa* (説明する), *sandahan karanawaa* (話す), *danwanawaa* (知らせる), *wimasanawaa* (尋ねる), *ahanawaa* (尋ねる), *liyanawaa* (書く), *saTahan karaanawaa* (書きとる) 等がある。これらの動詞と結びつく対格標示名詞は、抽象名詞であり、言語活動によって表される対象 = 内容を表している。

- 14) *owun maTa ætta kiiwee.* 《HE215》  
彼らは 私に 真相を 語った。
- 15) *ohu kumana deyak kataa karamin siTiyaa dæyi* 《KO132》  
彼が どんな ことを 話しているのか
- 16) *piyaa ohugen akkaa gæna noyekut toraturu æsuweeya.* 《KO92》  
父は 彼から 姉について 様々な 情報を 尋ねた。
- 17) *nangii wilaapa demin kiyuu dee obatumaaTa liyaa* 《HE217》  
妹が 号泣しながら 言った ことを あなたに 書き

### 2.3 意志活動

意志活動を表す動詞として、日本語では、意図活動や要求活動を表す動詞が挙げられ、それぞれと組み合わせさせた対格標示の動作性名詞が、意志活動の内容を表す<sup>5)</sup>。しかし、シンハラ語の *tiiraNaya karanawaa* (決める), *niyama karanawaa* (決める) などの意図活動動詞は、与格標示を受けた動作性名詞と組み合わせるために、ここからは除外される。一方, *balaaporottu wenawaa* (期待する), *at harinawaa* (諦める), *patanawaa* (欲する), *ayadinawaa* (嘆願する), *piLi gannawaa* (認める), *apeekshaa karanawaa* (望む), *dppraarthanaa karanawaa* (祈る), *anumata karanawaa* (容認する) 等, 要求活動を表す動詞については、対格標示を受けた名詞と結びつくので、このカテゴリーの中に入れることが可能である。

- 18) *apiTa iiTa waDaa loku saenasiimak balaaporottu wenna puLuwan da?* 《MG77》  
私たちに これ以上 大きな慰めを 望むことが できる か?
- 19) *obee darsṣanaya nam maTa piLiganTa bææ.* 《MG102》  
あなたの 考えは 私に 認めることが できない。
- 20) *amaradaasa mahataagee cintanaya anumata karanna see ya.* 《HE121》  
アマラダーサ氏の 空想を 容認した ようだ。

### 3. 認識の結びつき

認識の結びつきとは、発見し、意識し、認知することで動作主と対象との関係が築かれるような意味を表す、動詞と名詞の結びつきである。サブカテゴリーとして、発見活動、認知活動、再生活動、計算活動に分けることが出来る。

#### 3.1 発見活動

発見活動を表す動詞としては, *soyanawaa/hoyananawaa* (見つける), *pasak karanawaa* (発見する), *dakinawaa* (みとめる), *sihi wenawaa* (感じる), *penenawaa* (見つける), *asanawaa* (聞く), *hæ<sup>n</sup>genawaa* (感じる) などがある。これらの動詞は、発見の対象として、具体物・抽象概念に関わらず様々な意味を表す対格標示名詞と組み合わせる。また、対格標示名詞の他、場格で示された名詞を発見の場所として取ることができる。

- 21) *natara kara tibunu kaar raassiya atara itaa amaruwen iDak soyaa* 《HE64》  
停めて ある 車の 間に とても苦勞して 余地を 見つけ
- 22) *ewara lookayehi apuru saundayayak æti bawa pasak kara gat* 《KO118》  
この 世界に 美しいものが ある 事実を 発見し
- 23) *K gee Kaamarayehi ojoosangee ruupaya dækiya hæki awasThaawak* 《KO157》  
K の 部屋に お嬢さんの 姿を 見ることが出来る 機会

5) 奥田 前掲書 p235

## 3.2 認知活動

認知活動を表す動詞としては, *ha<sup>n</sup>dunanawaa/a<sup>n</sup>dunanawaa* (知る), *dannawaa* (知る), *dæna gannawaa* (知る), *balanawaa* (認める), *wimasanawaa* (確かめる), *parikshaa karanawaa* (確かめる), *amataka wenawaa* ([無意志的に] 忘れる), *amataka karanawaa* ([意志的に] 忘れる) などがある。これらの動詞は, 認知の対象として, 具体物・抽象概念に関わらず様々な意味を表す対格標示名詞と組み合わせる。

- 24) *ssrii lankaa samaajaua muhunadena abhiyooga ha<sup>n</sup>dunaagæniima* 《懸vii》  
スリランカ 社会が 直面する 挑戦を 認識すること
- 25) *paa pædi tabannangee siyalu wistara danii* 《WD22》  
自転車 を 預ける人々の すべての 事情を 知っていた。
- 26) *maawa amataka karanTa epaa*. 《MG69》  
私を 忘れては いけない。

## 3.3 再生活動

再生活動を表す動詞としては *matak wenawaa* ([無意志的に] 思い出す), *matak karanawaa* ([意志的に] 思い出す) *mataka tiyenawaa* (覚えている), *mataka tabaa gannawaa* (暗記する), *sihi wenawaa* ([無意志的に] 思い出す), *sihi pat wenawaa* (思い出す), *sihipat karanawaa* (思い出す) *sihi karanawaa* ([意志的に] 思い出す) などがある。これらの動詞は, 再生活動の対象として, 具体物・抽象概念に関わらず様々な意味を表す対格標示名詞と組み合わせる。

- 27) *okusan kii deewal ada pawaa maTa pæhædili lesa mataka tiyenawaa*. 《KO182》  
奥さんが言った ことを 今でも 私は はっきり 覚えている。
- 28) *kamakura gamana sihi wenna*. 《MW28》  
鎌倉旅行を 思い出して下さい。
- 29) *magee baala kaalayata taruNa kaalayata sihipat kiriimaTa tæta keLemi*. 《KW56》  
私の 幼い 時も 若い 時も 思い出すことを 試みた。

## 3.4 計算活動

計算活動を表す動詞としては *gaNan karanawaa* (数える), *gaNinawaa* (数える), *gaNanaya karanawaa* (計算する), *maninawaa* (はかる) などがある。これらの動詞と組み合わせる対格標示名詞は, 計算活動の対象を表している。

- 30) *ohu dimi goTu gaNan keLee ya*. 《HE226》  
彼は 蟻の巣を 数えた。
- 31) *eya kihipawarak ma sitin gaNanTa tæta kaLa mut*, 《WD139》  
それを 何度か 心で 数えることを 試みたが
- 32) *apa meegollanwa maninne paraNa minumwalin mayi*. 《HE100》  
私達が 彼らを はかるのは 昔の 基準でだ。

## 4. 態度の結びつき

かわり動詞の中には、対象に対する積極的な態度を表すものがあり、このような動詞と対格標示名詞がつくる組み合わせが、態度の結びつきである。この結びつきは①感情＝評価的な態度、②知的な態度、③意義付け的な態度、④表現的な態度のカテゴリーに分けられる。

## 4.1 感情＝評価的な態度

感情＝評価的な態度の動詞とは、対象に対する主体の感情や評価を表すもので、*priya karanawaa* (好む)、*awiswaa karanawaa* (疑う)、*sihi wenawaa* (思う)、*sihipat karanawaa* (思う)、*adahanawaa* (信じる)、*wiswaa karanawaa* (信じる)、*winooda wenawaa* (楽しむ)、*satutu wenawaa* (楽しむ)、*piLikul karanawaa* (嫌う)、*epaa wenawaa* (嫌う)、*heLaa dakinawaa* (批判する)、*agaya karanawaa* (尊敬する)、*wiweecanaya karanawaa* (評価する)、*gaurawaya ræka gannawaa* (重んじる)、*huru wenawaa* (なじむ)、*purudu wenawaa* (なれる)、*wuranawaa* (たえる)、*iwasanawaa* (たえる)、*wusulanawaa* (たえる)、*waawanawaa* (たえる)、*prassansaa karanawaa* (感謝する)などの動詞がある。これらの動詞と組み合わせた対格標示の具体名詞や抽象名詞は、感情＝評価的な態度が向けられる対象を表す。

- 33) *ssishya ssshyaawat amaradeewagee giita priya karatiyi ohu nosituwee ya.* 《HE100》  
 学生達も アマラデーワの歌を 好むと 彼は 思わなかった。
- 34) *mama samaajawaadaya adahana kenek.* 《HE47》  
 私は 社会主義を 信じる 人間だ。
- 35) *mama DokTa amaradaasawa heLaa dakinna kiyanawa newee.* 《HE123》  
 私は アマラダーサ博士を 批判するために 言っているのではない。
- 36) *karuNaawanta wæDihitiyan api ee dawawala agaya nokeLemu* 《HE224》  
 親切な人を 少しも 私たちは このごろ 尊敬していない。

## 4.2 知的な態度

知的な態度の動詞とは、対象が、どのようなものであるのか判断を与えることを表す動詞で、*kalpanaa karanawaa* (考える)、*salakanawaa* (見なす)、*sitanawaa* (思う)、*sæka karanawaa* (疑う)、*wæradi lesa waTahaa gannawaa* (思いちがえる)、*penenawaa* (見える)、*hængenawaa* (思う)、*sitanawaa* (思う)などの動詞がある。これらの動詞は思考活動の動詞とも重なるが、思考活動の結びつきの場合は、思考する対象だけを表すのに対し、知的な態度の結びつきでは、思考の対象がどうであるのかといった内容まで広がっている点で異なる。よって、対象を表す名詞が、*lesa, see, hætiyaTa, koTa, wagee* (～として、～のように)のような後置詞がついた名詞とともに使われたり、*-yi* (～と)、*bawa* (～こと)のような引用句の中で使われるところに、知的な態度の結び付きの特徴がある。

- 37) *api nuugat upaasakawaru wagee kalpanaa karanawa da?* 《HE122》  
 私たちを 教育のない 信者の ように 考えているの か。

- 38) *magee mawa maa sælakuwee tawama kuDaa daruwaku see ya.* 《KO83》  
私の 母が 私を 見なすのは まだ 小さい 子供 としてだ。
- 39) *saTanaTa udawu karapu aya api mitrayo hætiyaTa salakanawaa.* 《HE19》  
戦いを 支援した 人達を 私達は 友人 として 見做す。
- 40) *laukika dee piLiba<sup>n</sup>dawa aDupaaDu sewiima nohobinaa deyak lesa salakannaTa æti* 《KO144》  
世俗的な ことに関する 不足を 調べることを 不道徳的な こと として 見做していたに 違いない。
- 41) *mama ohu baala sahoorayaku koTa sælakuwemi.* 《MW91》  
私は 彼を 弟の ように 見做した。
- 42) *maa ho<sup>n</sup>da kenaku bawa nihatamaaniwa sitaa gæniimaTa* 《KW35》  
自分を いい 人である ことを 謙虚に 思うこと
- 43) *wiwaahaya bihisuNu deyakæyi sitaa gena siTi namudu* 《KW122》  
結婚を 恐ろしい ことと 思っていたが、

#### 4.3 意義付け的な態度

意義付け的な態度とは、ある対象に何らかの意義付けを与えることである。この意義付けを表す動詞としては *karanawaa* (する), *ugas karanawaa* (担保にする), *upamaa karanawaa* (たとえる), *samaana karanawaa* (たとえる), *tooranawaa* (選ぶ) などがあり、これらの動詞と結びついた対格標示名詞は、意義付けの態度が向けられる対象を表す。

- 44) *dumriyapaLa lægum paLa kara gat mahalu si<sup>n</sup>ganna* 《WD192》  
駅を 居住の場に している 老齢の 乞食
- 45) *kæbaellawala iDama ugas karalaa* 《WD105》  
キャベツラワラの 土地を 担保にして
- 46) *maawa mamiyakaTa samaana karapu eka gæna* 《SJ53》  
私を ミイラに たとえた ことについて

#### 4.4 関係づけ的な態度

関係づけ的な態度とは、複数の対象を関係付ける態度である。45)46) のように、対格標示名詞と *haa*, *samaga* など共格標示の後置詞を伴った名詞のペア、或いは、47)の *dawas* (日々) のように複数形の対格標示名詞が、関係付けられる二つの対象を表す。この動詞としては、数はあまり多くないが、*sa<sup>m</sup>bandha karanawaa* (結び付ける), *sasa<sup>n</sup>danawaa* (比べる) *bedanawaa* (区別する) などがある。

- 47) *bhaktiya wæni wacana yuwatiyaka haa sambandha karana wiTa* 《KO129》  
信仰の ような 言葉を 若い女 と 結びつける 時
- 48) *jayaaruupayehi siTi niLiya samaga mama magee swaruupaya sæsa<sup>n</sup>duwemæ yi* 《MW14》  
写真に いる 女優 と 私は 私の 姿を 比べたかと

- 49) *aya muNagæsiya hæki dawas haa muNagæsiya nohæki dawas yanuwen magee*  
 彼女に会うことができる 日 と、会うことができない 日とに 私の  
*dawas dekoTasakaTa bedaa gena tibuNi.* 《KW93》  
 日々を二つに 分けていた。

#### 4.5 表現的な態度

表現的な態度とは、感情＝評価的な態度の結び付きに近いが、態度が表現を受けて表に表れるという点に特徴がある<sup>6)</sup>。これらの動詞としては *agee karanawaa* (褒める), *warNanaa karanawaa* (褒める), *pasasanawaa* (称える) *heLaa doDanawaa* (罵倒する), *wiweecanaya karanawaa* (非難する) などがある。これらの動詞と結びつく対格標示の具体名詞、或いはその具体物の属性を表す抽象名詞が、表現的な態度を受ける対象となる。

- 50) *haamuduruwan dinapataama ohuwa warNana karana ladii.* 《友67》  
 僧侶は 日常的に 彼を ほめた。  
 51) *samaharu ohugee naayakatwaya pasasamin* 《HE52》  
 ある者は 彼の 指導性を たたえ、  
 52) *samaharu i<sup>m</sup> duraa ma sšishyayin heLaa doDani.* 《HE13》  
 ある者は 露骨に 学生を 罵倒した  
 53) *samaharu wakra lesa sisun wiweecanaya karamin* 《HE13》  
 ある者は 遠回しに 学生を 非難したり

表現的な態度を表す動詞は、その態度の内容を、*lesa* のような後置詞や引用句によって表すことができる。

- 54) *maa supa sšaastrayehi keLa pæmiNi itiri kæyi pasasamin* 《MW125》  
 私が 料理法で 奥義を おさめたと 誉めながら、  
 55) *rasa kæwili saamaa saha wimal mahat lesa agee kaLaa* 《友137》  
 お菓子を サーマー と ウィマルは いつも ほめた。

#### お わ り に

今回は、かかわり動詞と対格標示名詞が作る結びつきのうち、感性的な結びつき、知的な結びつき、認識の結びつき、態度の結びつきを取り上げた。これらのかかわり動詞が、概ね対格標示名詞と結びつくことは、日本語の場合と共通するが、一方で、「2.3 意志活動」で指摘したように、シンハラ語では、意図活動の動詞の対象を対格標示名詞でなく与格標示名詞で表すことに、相違点があることも指摘できた。

今回の論文では、紙幅の都合で扱えなかった動作的な態度の結びつき、内容の結びつき、論理的な関係の表現を取り上げたい。

6) 奥田 前掲書 p261

## 用 例 出 典

- 《HE》 Ediriwira Sracchandra, *heTa echara kaLuwara nææ* (Colombo: pradiipa prakaaşakayoo, 1975)
- 《KO》 Tadashi Noguchi, *kokoro* (Colombo: S. Godage, 1979)
- 《KW》 Aariya Rajakaruna, *kawabata yasunarigee keTi katha* (Colombo: Gunasena, 1998)
- 《MG》 Ediriwiira Sracchandra, *maLagiya ætto* (Colombo: S. Godage, 1959)
- 《MW》 Ediriwiira Sracchandra, *maLawungee awurudu daa* (Colombo: S. Godage, 1965)
- 《SJ》 Aariya Rajakaruna, *şreeshTha japan chitraPaTa katha* (Colombo: Lake House, 1986)
- 《WD》 Anula Wijayaratna Menikee, *waDabaa ginna* (kottawa: Sara Publishers, 1991)
- 《友》 日下大器・日下淑子編『ともだちその他シンハラの話』くさか基金, 1997
- 《懸》 日下淑子・日下大器編『懸賞論文 (スリランカ国) 迎える世紀でスリランカ社会が乗り越えないければならない挑戦』くさか基金, 2000

[2008. 9. 29 受理]